

3 里地里山管理や利用の実践的手法の拡大

①科学的・実証的な視点からの管理・利用手法開発の例

神奈川県：ヤマビル調査

秦野市で取り組む「鳥獣・ヤマビル対策としての里山整備」では、落ち葉の下など暗く湿った場所を好むヤマビルを減少させるため、下刈り・落ち葉かき等の昔ながらの管理を行う「環境的防除」が始まった。防除の効果は、ヤマビル研究会の協力を得て毎年検証を行っている。

「環境的防除」の方法は、フィールドを[落ち葉かき区]、[対照区（整備しない）]、[落ち葉かき＋シカ柵区]に分け、秋に生息数調査、冬に整備（下刈りと落ち葉かき）、翌6月頃に生息数調査を行い、整備作業による生息数への影響を検証している。また、実験区域の温度・湿度の計測と、ヤマビル生態調査も行なっており、整備による環境変化によってヤマビルの生態にどのような影響があるかも検証した。

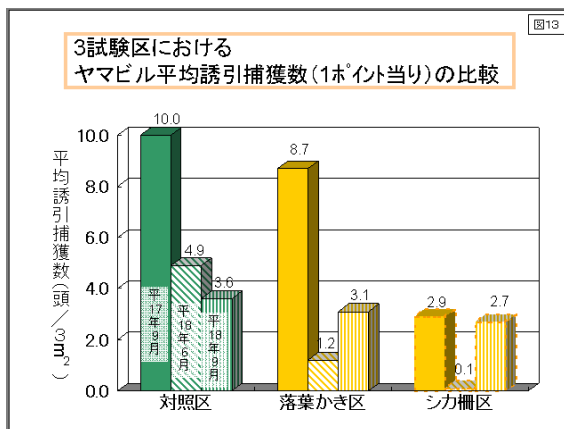
上記調査の結果、里山整備がヤマビル防除に有効であること、シカによる持ち込みを無くすことでより効果があがること、継続した整備が必要であることが、科学的に裏付けられた。この結果が地権者等に理解され、実験から実践へ、当初調査地区から他地区へと、整備作業が拡大した。



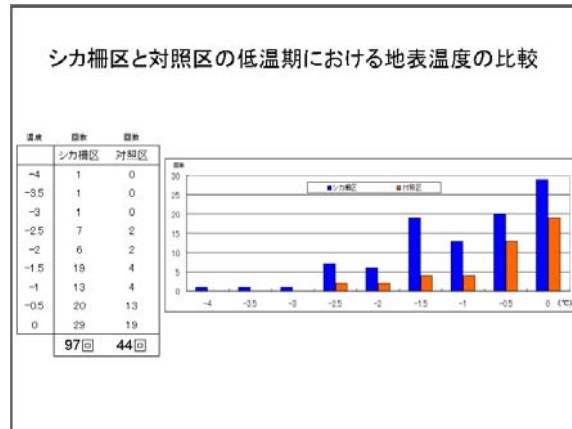
ヤマビル生息数調査



研究用に持ち帰られるヤマビル



ヤマビル平均誘引捕獲数



鹿柵区と対照区の低温期における地表温度の比較